令和　3年　3月　5日

令和２年度　練馬区立大泉第二中学校　学校評価報告書

練馬区立大泉第二中学校
校　長　　関　基　雄

１　自己評価結果

(1)　方法について

これまでの本校の自己評価にはいくつかの課題があったため今年度は以下の点で大きく改善を図った。

①　生徒アンケートがこれまで生活意識調査となっていたが、一部を残してそれ以外は学校の教育活動に対するアンケートに変更した。

②　保護者アンケートの項目について重複があるため項目の整理を行った。

③　保護者アンケートと生徒アンケート項目に関連性をもたせるように工夫をした。

④　昨年度課題が見られた項目は文言をそのままにして変化が見られるようにした

【昨年度のアンケートで課題ととらえ、今年度も同じ文言とした保護者アンケート項目】

学校の雰囲気が明るく、生徒に活気があり、生徒は成就感や達成感を味わって過ごしている
生徒の学習の成果をわかりやすく伝え評価を適切に行っている
生徒に対して公平・適切に接し、子供の相談に応じている

【昨年度のアンケートで課題ととらえ、今年度も同じ文言とした生徒アンケート項目】

学校は好きですか
自分はよいところがあると思いますか
将来の夢や目標をもっていますか
家の手伝いや地域の役に立つことをしていますか
昨年に比べて家庭学習の時間は増えていますか

⑤　今年度新たに取り組んだことについての質問項目を設けた。

・新学習指導要領に沿った教育が達成できているかをみるための項目
「生徒の関心・意欲を生かした自主的・自発的な学習の工夫がなされているか」
「グループ活動など生徒が意見や考えを表現する活動がなされているか」
・今年度新たに行ったり、特に力を入れた項目についての質問項目
「キャリアパスポート」、「学びのススメ」、「感染症対策」、「オンライン」など

分析方法について

①　保護者、生徒アンケートともに「よい」評価の割合＋「まあまあ」評価の割合を「肯定的評価」とし、「あまり」評価の割合＋「よくない」評価の割合を「否定的評価」とした。「わからない」評価の割合はそのままの評価として集計した。

②　各アンケート項目について「よい」評価（4 点）×人数＋「まあまあ」評価（3 点）×人数＋「あまり」評価（2 点）×人数＋「よくない」評価（1 点）×人数＋「わからない」評価（0 点）×人数を総人数で割って平均値を出した。

③　今年度は保護者アンケートについては「わからない」評価を除いた評価も出して比較をすることとした。

④　指標の目安

集計結果から 0.01 あげるためにはおおよそ 5 人が 1 つ評価をあげた計算となる。そのため 0.1 は約 50 人、0.2 で約 100 人分の評価の変化があることを示していると思われる。評価の目安として「わからない」を除いた評価では肯定的な評価５０％は 2.5 となり、肯定的な評価８０％は 3.4 となる。

（２）概要

①　保護者アンケート読み取れること

昨年度評価が低く課題があると思われた項目について昨年度と今年度を比較したのが下の表である。「比較をして学校の雰囲気が明るく、生徒に活気があり、生徒は成就感や達成感を味わって過ごし

ている」は昨年度と同じ値であったが、それ以外は評価が高くなっていることがわかる。また、全ての評価の平均を比較したところ、昨年度の平均 2.56 に対して今年度は平均 2.65 と評価が高くなっていることがわかった。

NO	質　問　項　目	昨年	今年	変化
①	学校の雰囲気が明るく、生徒に活気があり、生徒は成就感や達成感を味わって過ごしている	2.96	2.96	±０
⑥	生徒の学習の成果をわかりやすく伝え評価を適切に行っている	2.66	2.89	＋0.23
⑭	生徒に対して公平・適切に接し、子供の相談に応じている	2.36	2.60	＋0.24

昨年度、今年度とアンケートを行い、回答の中で「わからない」という回答の割合が高いと評価が低くなる傾向があることが分かった。そこで評価をしている人ではどのような傾向となるのかを見るために、「わからない」を除いた評価を出してみたところ、平均値である 2.5 を下回ったのは以下のものであった。

生徒は「学びのススメ」を活用し、家庭で学習に取り組んでいる

また、評価が３.０以下のものは以下の 6 項目であった。

授業はその時間のねらいが明確で、何を学ぶのかがわかりやすくなっている
生徒の関心・意欲を生かした自主的・自発的な学習の工夫がなされている
相談活動や授業での対応、様々な配慮を行うなどの個に応じた教育を行っている
キャリアパスポートなどを活用し、適切な進路指導を行っている
大南小、大二小との小中一貫教育に努めている
積極的に家庭と連絡をとり、きめ細かく意思疎通を図っている

② 生徒アンケート結果から読み取れること

生徒アンケートがこれまで生活意識調査となっていたことを学校の教育活動に対するアンケートにしたため質問項目全体を通した比較はできなかったが、昨年度のアンケートで課題ととらえ、今年度も同じ文言とした生徒アンケート項目について比較を行った。「学校は好きですか」という項目は若干評価が下がったが、それ以外の項目では評価が上がっていることが分かった。

NO	質　問　項　目	昨年	今年	変化
㉒	学校は好きですか	3.02	2.98	－0.04
⑰	自分はよいところがあると思いますか	2.47	2.75	＋0.28
⑱	将来の夢や目標をもっていますか	2.84	3.04	＋0.20
⑲	家の手伝いや地域の役に立つことをしていますか	2.57	2.80	＋0.23
㉑	昨年に比べて家庭学習の時間は増えていますか	2.83	3.13	＋0.30

③ 保護者、生徒、教員の評価を比較して読み取れること

今年度は初めて保護者、生徒、教員の評価を比較することができるようになった。比較をしてみると保護者評価については「わからない」を含めた保護者評価は評価が極端に低くなるが、「わからない」を除いた保護者評価では生徒、教員評価と似たような傾向となり、妥当性があると思われる。そのため三者の比較には「わからない」を除いた保護者評価を使うこととした。このうち保護者と教員で開きが大きかった上位 5 項目をまとめると下の表のようになった。

ＮＯ	保護者と教員で評価の開きの大きかった項目	保護者	教員	保護者－教員
⑯	積極的に家庭と連絡をとり、きめ細かく意思疎通を図っている	2.87	3.56	0.68
⑲	生徒は「学びのススメ」を活用し、家庭で学習に取り組んでいる	2.46	1.84	-0.62
⑰	学校・学年だよりやホームページ、学校連絡メールを活用して家庭や地域に積極的に情報を発信している	3.35	3.81	0.46
⑮	教職員は、生徒の悩みや困っていることに応えようと熱心に取り組んでいる	3.16	3.59	0.42
⑪	大南小、大二小との小中一貫教育に努めている	2.88	2.47	-0.42

また生徒と教員で開きの大きかった上位５項目をまとめると以下の表のようになった。

ＮＯ	生徒と教員で評価の開きの大きかった項目	生徒	教員	生徒－教員
⑯	オンラインによる取り組みは役に立っている	2.64	3.35	0.71
㉙	「学びのススメ」を活用し、家庭学習の仕方がわかるようになった	2.42	1.84	-0.58
⑨	キャリアパスポートなどを活用し、適切な進路指導を行っている	3.35	2.84	-0.51
⑬	先生方は困ったことやわからないことに熱心に取り組んでくれますか	3.10	3.59	0.49
⑦	いじめなどの問題についてしっかりと対応していますか	2.87	3.34	0.47
⑫	先生方は誰に対しても同じように相談にのってくれていますか	3.03	3.50	0.47

④　**自己評価**

今年度はコロナ禍のためいろいろな制限があり、思うような活動を行うことができなかった。そのため生徒の主体性を伸ばしていく機会が少なくなってしまった。そうしたことが評価にも出ていると思われるが、制限がある中では比較的評価されているように思われる。

配慮が必要な生徒年々増加してきており、それについて担任を中心に丁寧に対応をしてきていると思うが、問題が生じたときだけでなく普段からの接し方が大切であると感じた。

また教員がやっていると思っている以上に保護者に伝わっていないことが多いことが分かった。ホームページなどを使って取り組みを発信しているが今後はタブレット端末などの活用も考え、今後も発信していくことが必要である。

（３）　根拠となる資料（別紙　資料）

令和２年度　学校評価アンケート保護者、生徒、教員評価比較表
令和２年度　生徒学校評価アンケート学年別評価表
令和２年度　生徒学校評価アンケート評価分析表

２　学校関係者評価（案）

(1)　総括

①　成果

今年度評価方法を改定したことで実情をとらえた評価になったことが大きな成果である。今年度はコロナ禍の影響で計画をしていた教育活動が十分行うことができなかった。そのことが評価にも多分に影響していると考えられ、単純に前年と比較できないのではないかと考える。しかし、そうした制約がある中でも工夫をして様々な取り組みを行ってきた。感染対策についてはＰＴＡの生徒活動賛助費などを活用し、フェイスシールドを全生徒分配布したり、ウィルスの飛散防止のため各教室に蓋付きのごみ箱を購入したり、さらには消毒用のアルコールを充分な量の購入をするなど対策を早くから行ってきた。また、感染者や濃厚接触者が出た際の対応についても学校独自のマニュアルを作成してきた。こうした取り組みなどにより、幸いにもこれまで感染による臨時休校などの措置をとることもなくこられたことは一つの成果であるといえる。

また、ズームが導入されたことを活用して早くからオンラインでの取り組みを行い、オンラインでの保護者会や進路説明会、夏季休業中に試験的にオンライン学活、ズーム朝礼など直接集まらなくても集会等を行えるような取り組みにも力を入れた。

学校行事も修学旅行やスキー教室、合唱コンクールなど多くの行事が中止となってしまったが、体育祭を始め各学年でも丁寧な取り組みを行うなどできるかぎりの努力を行ってきた。そうしたこともあり、保護者の評価の平均値が前年より高くなっていることは今年度の活動の成果といえる。昨年度課題としてとらえた項目についても多くの項目で昨年度より評価が上回ったことも成果として挙げることができる。

② 課題

一程度の成果は上げられたが課題としては以下の点が考えられる

・ 生徒の学習面に関して「活動を取り入れた授業」や「ＩＣＴの活用について」の項目に比べ「ねらいが明確な授業」、「自主的・自発的な学習の工夫」についての項目の評価が低くなっている。次年度から全面実施となる新学習指導要領ではこの点についての取り組みが重要となってくるため改善を図る必要がある。

・ 家庭学習の取り組みについて生徒の評価では家庭学習の時間は増えているとなっているが、今年度作成した「学びのススメ」を活用した取り組みについては評価が低くなっている。家庭学習の時間が増えたのは、コロナ禍の影響で家庭にいる時間が増えたことも関係しているのではないだろうか。「学びのススメ」については特に教員の評価が低くなっており、教員のほうでも作成をしたがそれを活用した指導をしていなかったことを示していると思われる。今年度はまずしっかりとした形を示すことを目的としたので、「学びのススメ」が作成できたことで目的は達成できたといえよう。次年度はぜひこの冊子を生かし家庭学習への取り組みが一層進められるようにしていくことが重要である。

・ いじめ対応や個に応じた指導については学校側としてはアンケート調査を行ったり、また問題がわかった際には丁寧に指導をしていることから教員の評価は高くなっているが、保護者や生徒の評価との開きが大きく、認識に差が見られることが課題と思われる。個別の対応は行っているが全体への働きかけが少ないことが考えられるので、保護者や生徒全体への啓発活動にも力を入れていくことが必要と思われる。

・生徒の学校が好きという度合いが昨年度よりも若干下がっているのは、コロナ禍のため様々な取り組みが中止となっていることも影響をしているのではないだろうか。次年度通常の取り組みができるようになるようであればその結果を検証していく必要があるのではないか。

・小中一貫教育の評価が低いのは、「一貫教育」というものがどういうものを指しているのかが保護者には理解しづらいのではないだろうか。練馬区における一貫教育とは、様々な連携をした上でカリキュラムにおいても義務教育９年間の連続性をもって行うこととしているが、練馬区では具体的にどのようなことを小中で一貫させようとしているのかが理解できないことと、一貫教育の趣旨が周知できているのか疑問がある。そうしたことからすると大二中でも小学校との連携はずいぶんと行えていると理解をしているが、一貫教育についてとなると高い評価を求めるのは難しいと思える。

③改善策

課題となった点については「学校関係者評価資料」にあるように目標と方策を立て改善に取り組んでいきたい。

(2) 根拠となる資料

学校関係者評価資料　別紙参照

３　評価結果の公表等

３月の保護者会にて校長より「保護者・生徒アンケート分析表」を資料として説明する予定であったが、コロナ禍のため保護者会を中止した。そこで今年度中に学校だよりで自己評価を公表し、「学校評価報告書」、「保護者・生徒アンケート分析表」をホームページで公開する。

４　次年度の学校改善へ向けた校長の見解

昨年度から学校評価の改善に取り組み、生徒、保護者のアンケート結果を丁寧に分析することで、成果や課題をより明確にすることができた。今年度は計画していた教育活動が十分行うことができなかったが、これまで行ってきたことを見直す良い機会ともなった。学校評価で示された課題を真摯にとらえ、今後も改善を図っていきたい。